

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690400047
法人名	NPO法人生活支援センターアットホーム新川
事業所名	グループホーム天神金さん銀さん
所在地	魚津市天神新野新671
自己評価作成日	R2年10月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年10月28日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化祭に入居者の壁画作品の展示をし、見学に行く。またこちらの行事の際、民生委員を通し、地域の高齢者の方に声を掛けて参加して頂いている。 ・演芸ボランティアや傾聴ボランティアなど、外部の方たちを積極的に受け入れ、楽しい時間を過ごすと同時に外部の新鮮な風を持ち込んでもらう。 ・裏の畑で季節の野菜を作り利用者の楽しみとなっている。 ・各自の好みに応じたレク活動ができ、また一人ひとりが笑って過ごせる時間をもつ。 ・春には花見、秋は紅葉狩りやぶどう、リンゴ狩りを楽しむ。 ・5月の避難訓練時は、消防署に来てもらい実施指導を受ける。地区にチラシを配り協力を得ている。 ・コロナウイルス感染防止のために一部外出や来所制限でリモート音レク、家族様とのリモート面会を行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>窓越しから四季折々の風景を一望できる自然豊かな環境の中、木の温もりや柔らかな日差しを取り入れ、入居者や来訪者にとって心地よい空間となっている。リビングにはウイルス対策として空気清浄機を置くなど環境に配慮がなされている。少人数でアットホームな生活の場としてできる限り自立した生活が送れるよう、レク委員会が中心となりパッチワークや季節ごとの貼り絵の壁画を作成し、地域の文化祭へ作品を出品するなど職員が一丸となることができることへの支援を行っている。法人はグループホームを5か所保有し、職員の異動や委員会活動、個人面接等の共通運用が行われ、職員の意見の反映や職員の自主性を重んじた活動を積極的に支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の付きやすい玄関・事務所に掲示しており、職員全員が理解し、支援の実践に繋げている。	法人の基本理念は玄関や事務室に掲示してある。毎年年度初めに各事業所が職員会議にて基本理念をもとに「年度目標」を作成している。事業所の特色を生かした目標を職員間で周知・実践し、活動を行っている。年度末には1年を振り返り、達成状況等を職員会議で評価し次年度に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・公民館祭りで入居者様の作品を展示するので、当日みんなで見学に行く。 ・避難訓練に地域の方に参加して頂いている。 (*新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている)	自治会に加入し地域の行事や活動等の情報を得ている。民生委員の協力のもと、地域の独居高齢者に呼びかけ、流しそうめんや各種行事に参加してもらっている。また、地域の方が避難訓練等へ参加したり、事業所から地域の清掃や活動に参加するなど、日頃よりつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・年2回実施する避難訓練に近隣の方にも参加して頂いている。 ・地区に2ヶ月に1回広報誌の回覧をお願いしている。 ・独居の方に行事の参加を促している。 ・公民館祭りに参加している(*新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、社協、地域、家族の代表8名の方に活動、事故、避難訓練、第三者評価などの報告を行い、意見や情報を頂いて日々のケアの向上に活かしている。	隔月に開催し活動状況、事故報告、行事報告や身体拘束をしない取り組みの報告や、地域の行事活動の情報など意見交換を行っている。今年度はコロナ禍のため書面開催や、密を避けるため公民館で開催するなど工夫がなされている。運営推進会議の内容は家族や職員へ報告し、情報共有が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市の介護課、包括支援センターの担当者が運営推進会議に参加している。 ・介護相談員の来訪があり、利用者さんとの会話の中から情報を頂きケアへの参考にしている(令和元年11月まで来所あり)。	運営推進会議には行政の職員も参加している。他市では火災の自動通報と火災報知器との連動を行っているため、魚津市でも取り入れてもらえないか提案し、実際の火災予防につながった。また社協から依頼された認知症ケアの講師や、介護相談員の受け入れなども行い、得た情報は職員間で共有しサービスに役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の具体的な行為について、またやむを得ず身体拘束する場合の条件等について話し合っている。 ・施設外に出ていく利用者様に職員が付き添い散歩したり、ドライブをお願いしている。 ・玄関、中ドアにセンサーがつけてある。 ・月2回の職員会議で事例を提供し認識を深めている。「スピーチロック」についてその都度指導。	身体拘束をしないケアの実践に向け、年2回外部の講師を招き研修会を行っている。また、外部研修参加者からの伝達研修等を実施し、事業所内のケアの振り返りを行っている。日頃、身体拘束につながる不適切なケアに繋がる危険がないかなどを再検討し、職員一人ひとりが身体拘束をしないケアについて理解を深めている。	身体的拘束等適正化委員会を設置し、3か月に1度会議を行い委員会の記録を残すなどの取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修後、職員会議などで報告、職員全員に理解してもらっている。また虐待についての概略を説明し、周知に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度について説明し、資料もありいつでも見られるようになっている。今後は研修会に参加し、職員全員が理解できるように努めたい。 ・現在、適用ケースはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書や重要事項説明書は、契約時に十分説明し理解を得ている。 ・ケアマネも同席して不明な点がないように十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情や要望は、家族の面会時などに主にケアマネが受付して今後のケアに役立てている。 ・運営推進会議に家族の参加で意見を頂き、日々のケアに活かしている。	運営推進会議や家族の面会時にケアマネが積極的にコミュニケーションをとり、本人の近況を伝えたり、意見や要望を聞き取っている。利用者からは日々の会話の中での思いや意向を個人ファイルの経過記録に記入し、日々のミーティングや連絡ノートで情報を共有している。生活状況を踏まえ、職員と家族の意思疎通を図りサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・主任会議、4つの委員会、だんらん会を通して、代表者が職員の意見を反映している。 ・個人的に本部事務所に出向き、意見を聞いて貰っている。	職員は、各種委員会や職員会議で意見を言える機会がある。管理者は職員とコミュニケーションを図り、要望等の把握に努め管理者会議にて相談・報告している。それら表出された要望などは法人代表が参加する主任会議で検討され、運営やサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の勤務状況に応じて給与や賞与に反映されている。長期勤労者に表彰がある。 ・専門誌を購読し、ケアの向上に努めている。 ・新型コロナウイルスの緊急事態宣言時、情勢を踏まえて、法人独自の慰労金支給があり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内外の各種の研修に積極的に参加し自己の振り返りと共に、職員会議で報告し他の職員に伝達研修を行っている。 ・外部研修費のバックアップがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、交流研修に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に本人や家族と面接を行い、それぞれの思いなどを聞いている。 ・事前に施設の見学を実施している。 ・他の介護サービスを利用している場合は、関係機関から情報を入手している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前や入所後の面会時に家族と積極的に話し合い、家族・本人の思いを理解するように努めている。 ・サービス導入後は家族の面会を受け入れながら、「如何ですか・・・」と話しかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前の面接で家族・本人と話し合い、入所後の支援の見極めを行う。 ・入所後も必要と思われる支援を随時提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・掃除や洗濯、食事準備など日常生活に必要なことは、本人状態に合わせ、できる限り職員と共にこなすようにする。 ・したい事や希望などを会話の中から導き出すようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族との絆が希薄にならないように、病院への受診や誕生日会、音レク発表会などの行事に家族の参加を促して訪問する機会を増やしている。 ・本人に面接の希望があれば、家族に来ていただく時もある。（*新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている）		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人・友人の面会があり、差し入れもある。 ・地域の文化祭の参加、施設の流しソーメンやスイカ割り等の行事に参加が続けられている。（*新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている）	家族の協力を得ながら、馴染みの場所や買物などの外出が実践されている。知人・友人が気軽に出入りできるよう配慮され、ゆっくりくつろいでもらえるような環境づくりに留意し、馴染みの関係継続が図れるような支援を行っている。今年度はコロナ禍により外出できないこともあり、グーグルマップにて自宅周辺を写したり、工夫を凝らして喜んでもらえるような取り組みを行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・できる人ができない人への手助けをしている姿が見られる。 ・孤立しない様に席の配置を変えたり、職員が間に入って、お互い関わりが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や他施設の入所になった場合、家族の了解を得て当施設の提供し連携に努めている。 ・家族には不安の無いよういつでも相談に応じ、支援している。 ・職員間でも情報を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・私の気持ちシートを活用し、思いの把握に努めている。 ・日常的に、本人の言動やしぐさで、思いや要望を見極めるように努めている。 ・ケアプランの際に本人・家族の意向を確認している。	入居時に私の気持ちシートを活用し、本人や家族から生活歴や思いや意向を伺い把握に努めている。また、日々のケアの中で本人の日常的な言葉やしぐさ等から情報を得て、月2回の職員会議でサービスの在り方等を話し合い、職員間での情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式を活用し、生活歴などを家族に記入して頂いている。 ・日常の会話から、これまでの暮らし方などを把握するようにしている。 ・家族の訪問時に、生活歴を聞いたりして、確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・朝のバイタルチェックで体調を把握している。 ・日課表の記入で一日の動向を把握している。 ・脳トレの持続的な実施を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・作成時に本人・家族の意向を確認している。 ・月2回の職員会議で、担当者が作成したケアプラン・評価を確認している。 ・前回のケアプランの評価と新たなプランを確認してもらい了解を得ている。	ケアプランの評価は3か月に1度見直しが行われ、職員会議で個別ケアについて話し合いプランに反映させている。家族への説明は作成の都度行い、遠方の家族に対しては状況確認できるようSNS等を活用している。	定期的にケア会議等は開催されているが、家族を交えたサービス担当者会議を実施できるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の介護記録や日課表を作成している。 ・申し送り時や職員会議で情報を共有して、支援の在り方を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・傾聴ボランティアの受け入れをしている。 ・定期的に演芸ボランティアの訪問がある。 ・花見、紅葉狩り、外食等の同行の希望を聞き実行に繋げている。(*)外出制限でテイクアウトを導入している(*新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の独居高齢者に行事に参加してもらう。 ・演芸・傾聴ボランティアの訪問がある。 ・運営推進委員会で区長・民生委員・社会福祉協議会・老人会など地域の方から情報収集。 ・地区の文化祭へ作品を展示し、見学に行く。(*新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている) 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医は本人・家族が決定している。 ・家族が決められない時は、施設の協力医を紹介している。 ・原則家族に受診のお願いをしているが、家族の不都合や遠方の時は職員が同行している。 	<p>かかりつけ医は入居時に希望を確認し決定している。受診は家族が同行し、場合によっては職員が同行することもある。受診の際には、本人の健康状態、生活状況など日頃の情報を提供し、スムーズで適切な受診につながるように支援している。結果は受診報告書に記載し情報共有に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・11月より週3日間の勤務をしている。 ・ケア、往診記録、申し送りを通して日常の健康管理と体調の変化に対応している。 ・看護師が薬の情報と薬の管理をしている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時は地域連携室と情報交換し、病状の把握に努めている。 ・入院中は面会で病状の情報収集に努め、退院後も安心して生活が送れるようにしている。退院時看護サマリーで情報を得ている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に説明し理解を得ている。 ・重度化した場合には、家族と協議して今後の対応を検討し、関係施設で本人にとって、最も良い居所を選択できるように支援している。 	<p>看取りについては、入所時に重要事項説明書の中で事業所の方針を口頭で説明している。重度化した場合は、早い段階から家族の思い、主治医の意見等を確認し話し合っている。利用者にとってより良い対応ができるように柔軟に取り組んでいる。</p>	<p>事業所で作成された「重度化の対応に係る指針」に基づき、口頭での説明だけでなく書面にて同意を得られるように書類の整備に期待したい。</p>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<p>緊急時のマニュアルを作成し掲示している。</p>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、夜間と日中想定で避難訓練を実施。 ・訓練時、近隣の方にも参加して頂いている。(*新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている) ・消防士より消火器の取り扱いや訓練の指導を受けている。シェイクアウト訓練も実施している。 ・運営推進委員会で災害対策について話し合っている。 	<p>年2回火災訓練を行っている。近隣の方にも訓練への協力を依頼している。今年度は地域で開催されるシェイクアウトに参加した。また、地震や風水害の対応等は消防計画に記述され、職員にも周知されている。非常災害用に非常食として缶詰を備蓄している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの性格を理解し、各自に適した対応を取るよう努めている。 能力に応じたレク活動や家事を行っている。 職員間で利用者様への声掛けや他に問題があれば互いに声を掛け合い指導している。 	<p>日常業務の中で気づいた入居者に対する言葉使いや対応について、職員全員を対象にした「勤めたい言動（良いと思う対応）、避けたい言動（好ましくない対応）」のアンケートを実施している。結果を抽出し、接遇委員会で集約、職員全体で共有し接遇改善に取り組んでいる。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> レク活動や家事手伝いでは本人の希望に添って行っている。 外出への参加は本人の希望を取り入れている。（*） 献立は利用者様の好みも食事に取り入れている。（*新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている） 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>各入居者の希望に合わせて、レクをしたり居室で過ごしたりして、思いを尊重し、無理強いしないようにしている。</p>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 日中は普段着ですごしている。 化粧水や乳液を付けたり、外出の際は好みの服を選んで着てもらいおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 可能な人には食事の準備や盛り付け、後片付けなどを手伝って頂いている。 流しソーメンや回転寿司に行ったりと、食事にも変化を持たせるようにしている。 皆さんでケーキやお菓子作り、おやつに食べている。 	<p>調理専属の職員が献立を立案、毎日新鮮な素材を購入し調理している。調理作業や後片付けなど、一人ひとりの思いに応じて参加の機会を作っている。また回転寿司、レストラン、喫茶店などでの外食の機会を作ったり、お祭りや誕生会などの行事食や家族も参加した食事会などを開催し、食事が楽しめるよう工夫している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 食事量を記入して体調の目安にしている。 必要な人には水分量をチェックし、体調に注意している。 食事形態も各自の嚥下状態に合わせている。 看護師より適宜に助言がある。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 自力で出来ない人は、全介助や一部介助にて行う、またテーブルに洗面器や歯ブラシを用意して行っている。 毎食後に口腔ケアを行い保清に努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 排泄チェック表を付けて、各自の様子を伺いトイレ誘導をしている。 トイレ時パットの汚染状況を確認するために介助に入る。 	タブレット端末で排泄の確認をしている。排泄リズムを把握し、自立した排泄を支援し、過剰介護にならないよう注意している。また、紙パンツやパット内の汚染状況を確認し、清潔保持や感染予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 散歩やゆとりっち体操、金さん銀さん体操、レクを取り入れている。 水分補給は好みに応じて好きなものを飲んでもらっている。 バランスのとれた食事の提供を心掛けている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 受診の時は前日に入浴するように配慮している。 週2回の入浴だが希望があればいつでも入浴ができる。 入浴出来ない日があれば翌日に振り替えるなど柔軟な対応をしている。 季節風呂の提供をしている。 	季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯などを行ったり、入浴の時間が利用者にとってリラックスし楽しい時間となるよう努めている。入浴は本人のタイミングに合わせて行い、拒否されてもシャワー浴や足浴、清拭で清潔が保てるよう一人ひとりに合わせた支援方法を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 疲れたり、1人になりたいときは、自室でやすまれている。 夏季、冬季は室温を調整し安眠できるように支援している。 睡眠状態把握の為「眠りスキャン」機器を導入している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員は利用者それぞれの服薬内容をいつでも確認できるようにしている。 一人で飲めない人には介助で飲んでもらっている。 薬の変更は職員全員に申し送り把握できるようにしている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 全員で体操やゲームをしたり、個別にレク活動をしている。 食事の準備・後片付けや掃除等可能な範囲で役割を持っていただき、感謝の言葉をかけている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 天気の良い日は散歩を楽しんでいる。(※) 車に乗り、ドライブ、花見、外食などを楽しんでいる。家族の協力のもと、外出や外泊で繋がりを深めていただいている。(※) 近所の協力を得て地域の催し物に参加。(※) (※新型コロナウイルス感染防止で外出、来所制限を行っている) 	天候が安定して春や秋は週に3~4日ドライブや散歩に出掛けるなど、外出の機会を多く設けている。ホームの横に畑があり、晴れた日の草むしりや畑仕事は、入居者の気分転換になっている。また家族の協力のもと外食へ出かけたり、近隣の温泉地で足湯を楽しむなどの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で預かっているため、本人の要望により一緒に好みの物を選び購入している。 (認知症のために、お金の所持が難しい方が多い)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族に電話をされる時は事務所の電話を使用している。 ・知人や家族からの電話及び手紙は本人に取り次いでいる。 ・家族に手紙を出す方の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有スペースではテレビ、DVD、好みの音楽などを流している。 ・壁には写真や作品を飾り、温もりを感じる雰囲気を作り出している。 ・ベランダや各居室から田園風景が広がり季節感が感じられる。	天然木の温かみのある構造に、広々としたリビングには南側にデッキがあるテラスから暖かな日差しが入り気持ち良い。また、空気清浄機を設置し新型コロナウイルス対策をとるなど配慮がなされている。リビングには大きなソファがあり、思い思いの場所でくつろぎながら談笑できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者同士の関係や希望を考慮し、席の配置を決めている。 ・思い思いに自席やソファに座って、新聞やテレビをみている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居に際して、好みの馴染みの家具類や家族写真を持参して飾ってもらっている。 ・居室内の配置などは本人、家族と相談して決めている。	入所時に家族の協力を得て、一人ひとりの希望や状況を考慮して家具を配置している。愛用の品や思い出のものなど持ち込んでいただき、本人にとって居心地の良い安心した居住空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自室やトイレが分かりやすいように大きく名前が書いてある。 ・歩行器や車いすの必要な方には準備し、安全に移動できるようにしている。		

2 目標達成計画

事業所名グループホーム天神金さん銀さん

作成日：令和 2 年12 月 8 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族様の参加によるケア会議(担当者会議)の記録が明確に記されていない。	月2回の職員会議で利用者様の課題に向けて意見交換を行い家族様の声も反映したプランを作成しているが意見も記録に残す。	家族様の意見・ご要望を取り入れ、ケアプランに反映し、全員で共有した内容を書面にして整備する。	6ヶ月
2	5	身体拘束適正委員会の設置や委員会の記録が残されていない。	月2回の職員会議で また、月2回の運営推進会議で委員の皆様と拘束状況を報告して意見交換がなされている。	ファイルを整備しておく。	6ヶ月
3	12	事務所で作成された「重度化の対応に係る指針」に基づいた入居・退所基準等を口頭だけでなく書面で同意を得られるように書類の整備を期待する。	もう少し自分に分かり易い文章にして同意書をもらう。	ご家族様の来所時に記録として残す。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。